

先端的金融IT技術を活用した資産運用業の現況と未来

小 粥 泰 樹 CMA
 嶋 村 武 史 CMA
 小 林 潤 史 CMA

目 次

- 1. はじめに
- 2. 付加価値向上に向けた経営資源のシフト
- 3. デジタル化によるコア業務の付加価値向上
- 4. 総括と日本への示唆

近時、構造的な収益性の低下に悩まされてきたグローバルの資産運用会社の多くはノンコア業務の効率化に注力してきた。しかし、先進的な資産運用会社は既にその局面を超えて、デジタル化を通じたコア業務の付加価値向上に取り組んでいる。そこでは、個別業務の高度化のみならず、データ活用を通じて組織としての付加価値の付け方を変革している。その基盤には、「機械」による「人」の能力の拡張や全社的なデータ管理がある。

1. はじめに

先端技術の金融への適用に向けた取組みは様々

な分野で進んでおり、資産運用においても非構造化データのAI分析などが注目されている。確かに、先端技術でどのようなことができるのかを知



小粥 泰樹 (おかい やすき)

野村総合研究所 研究理事 金融ITイノベーション事業本部副本部長。1986年東京大学工学部計数工学科卒業、88年東京大学大学院工学系研究科計数工学修了。同年、野村総合研究所入社。システムサイエンス部にて金融商品評価手法開発などに従事。93年NRIヨーロッパに赴任。金融ナレッジ研究部長、金融ITイノベーション研究部長などを経て、2011年執行役員就任。15年NRIホールディングスアメリカ社長、18年より現職。



嶋村 武史 (しまむら たけし)

野村総合研究所 金融デジタル企画一部 上級研究員。2004年早稲田大学法学部卒業、12年シカゴ大学経営大学院修了 (MBA with honors)。04年4月、新生銀行入行。米国留学を経て、12年8月野村総合研究所入社。金融市場研究グループマネージャーなどを経て、18年8月より現職。関連する論文に「資産運用におけるオルタナティブ・データの活用と日本への示唆」(NRI 知的資産創造、19年)がある。



小林 潤史 (こばやし じゅんじ)

野村総合研究所 金融デジタル企画一部 上級コンサルタント。2004年慶應義塾大学理工学部数理工学科卒業。04年UFJ信託銀行 (現：三菱UFJ信託銀行) 入社。17年9月、野村総合研究所に入社し、現職。